

令和1年度業績報告会

(令和2年7月7日)

小児科
門谷真二

はじめに

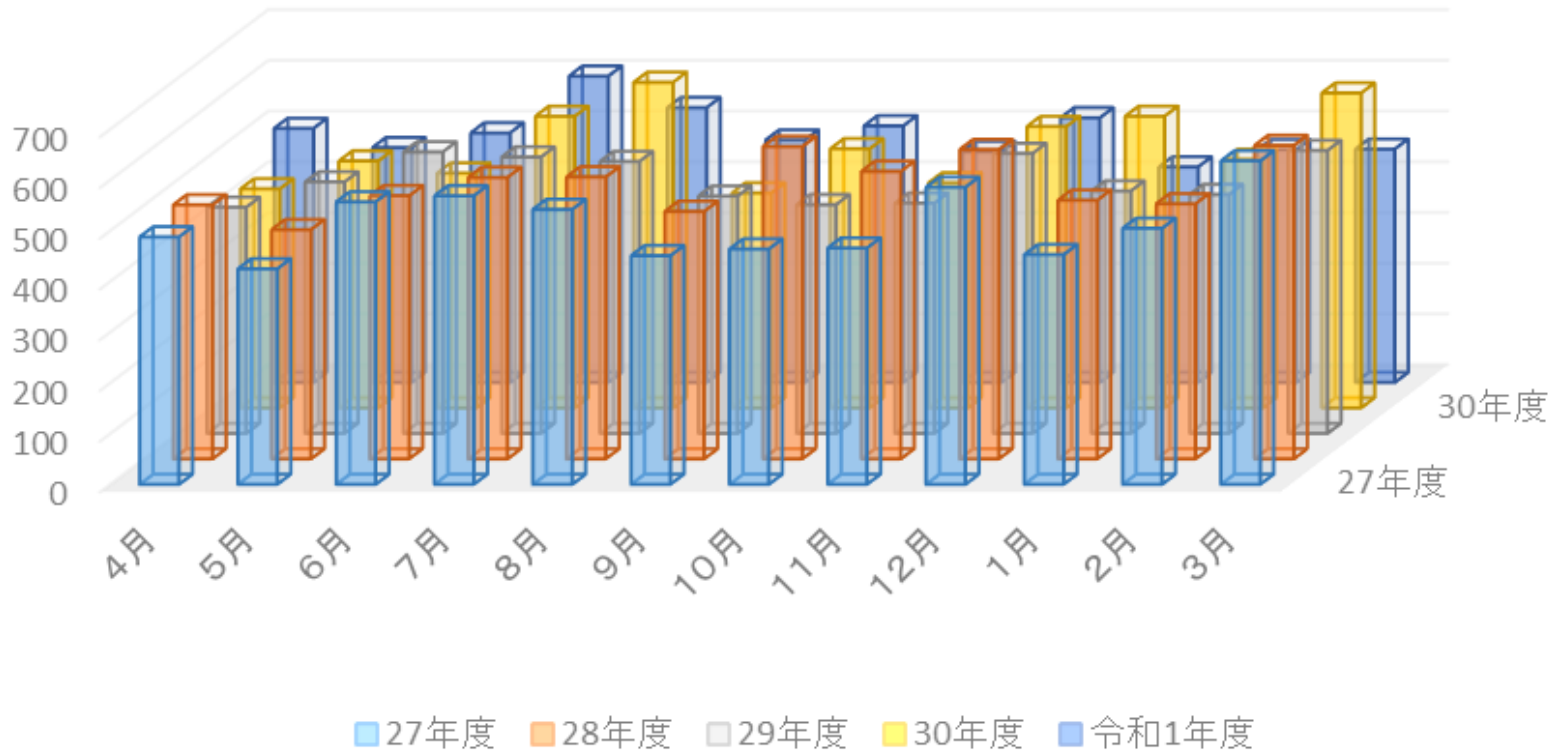
この病院の周囲ではマンション建築中のところが多い、西宮北口周囲では人口が増えている感じがするが、西宮市の人口が増えている訳ではなく人口は3年連続で減っている。小児科開業医数はさすがに飽和状態で今後はあまり増えないと思われる。昨年末までは、入院、外来患者数とも例年同様な感じであったが、年末から年初にかけてインフルエンザの流行はあまりなく患者数の低下につながったと思われる。今後、紹介患者でないと初診料が高額になり、開業医の先生方からの紹介をどれだけ増やすかにかかっていると思われる。



当院での現状

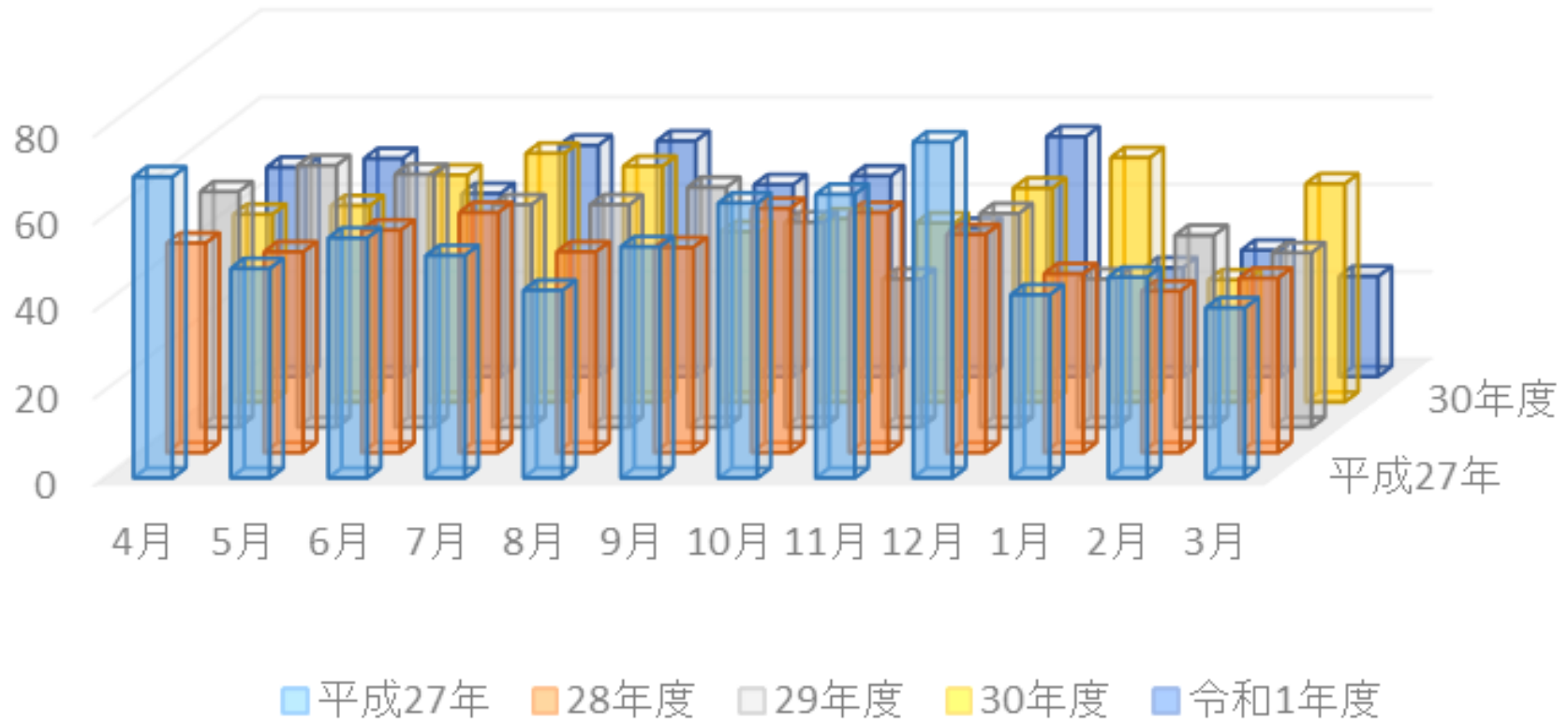
今年4月から、小児循環器科を長年されていた村上先生が当院に医務顧問という形で来ていただいている。心雑音を主訴に紹介患者が増えているような印象であるが、小児科の外来、入院患者のほとんどは感染症でありコロナの全国規模の流行の影響で学校が休校になり人から人への移る感染症が減少し外出も控え人混みに行く場合はマスク着用するようになっており当分感染症が流行しない状況が予想される。外来患者数も極端に低下し午前診の患者数も5人以下の時が多い状況で紹介患者数も減っている。紹介患者数で増えているのは西宮医師会で発表し、西宮医師会雑誌の4月号で論文にした莓状血管腫の内服治療の紹介数は増えている。

5年間の外来患者数



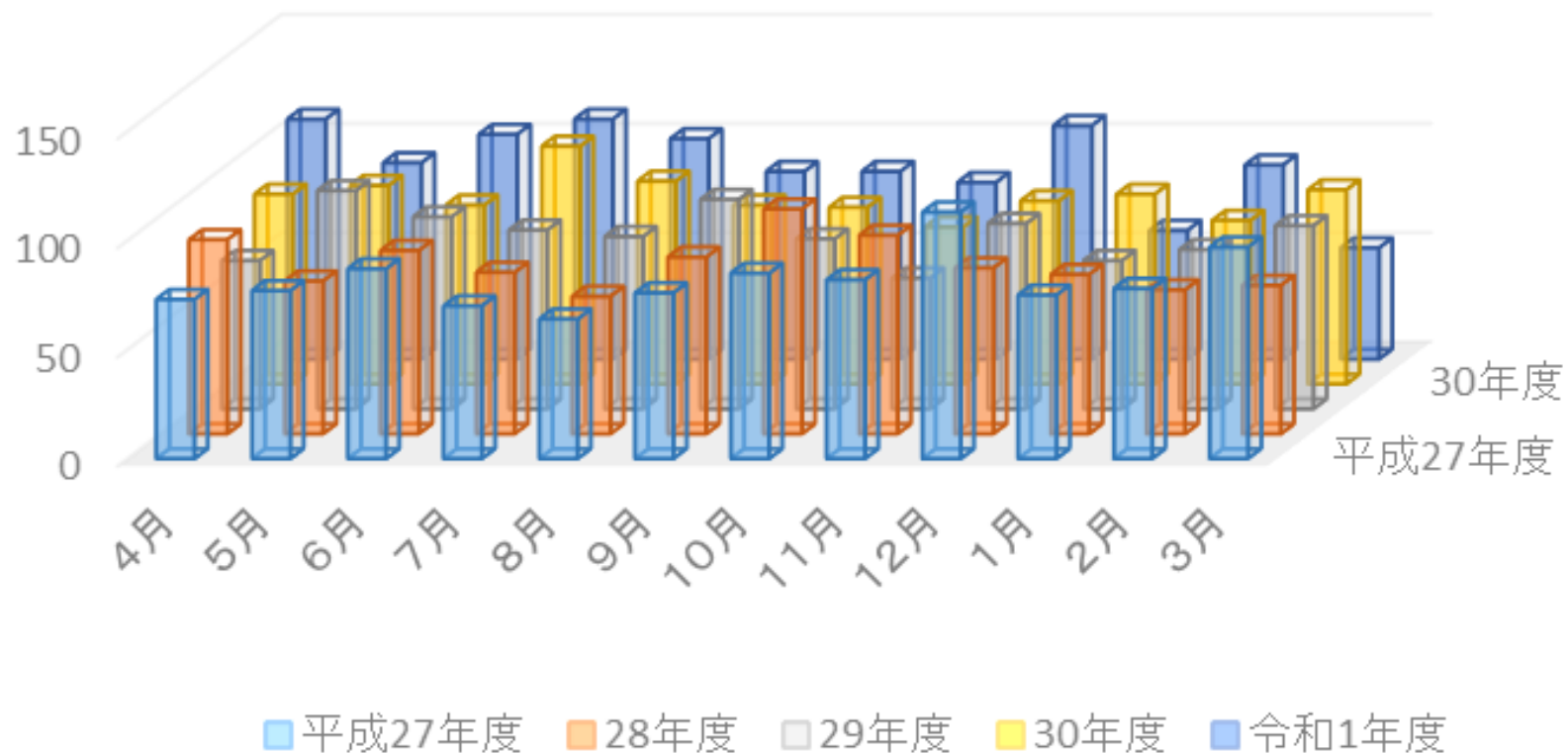
平成28年度6495人、29年度6010人と平成29年度少し低下したが平成30年度は6219人と少し増加した。令和1年度はインフルエンザの流行は例年に比べ極端に少なくコロナウイルスの影響もあり年度末の患者数も減り5907人とここ5年で一番少なかった。

5年間の新規入院患者数



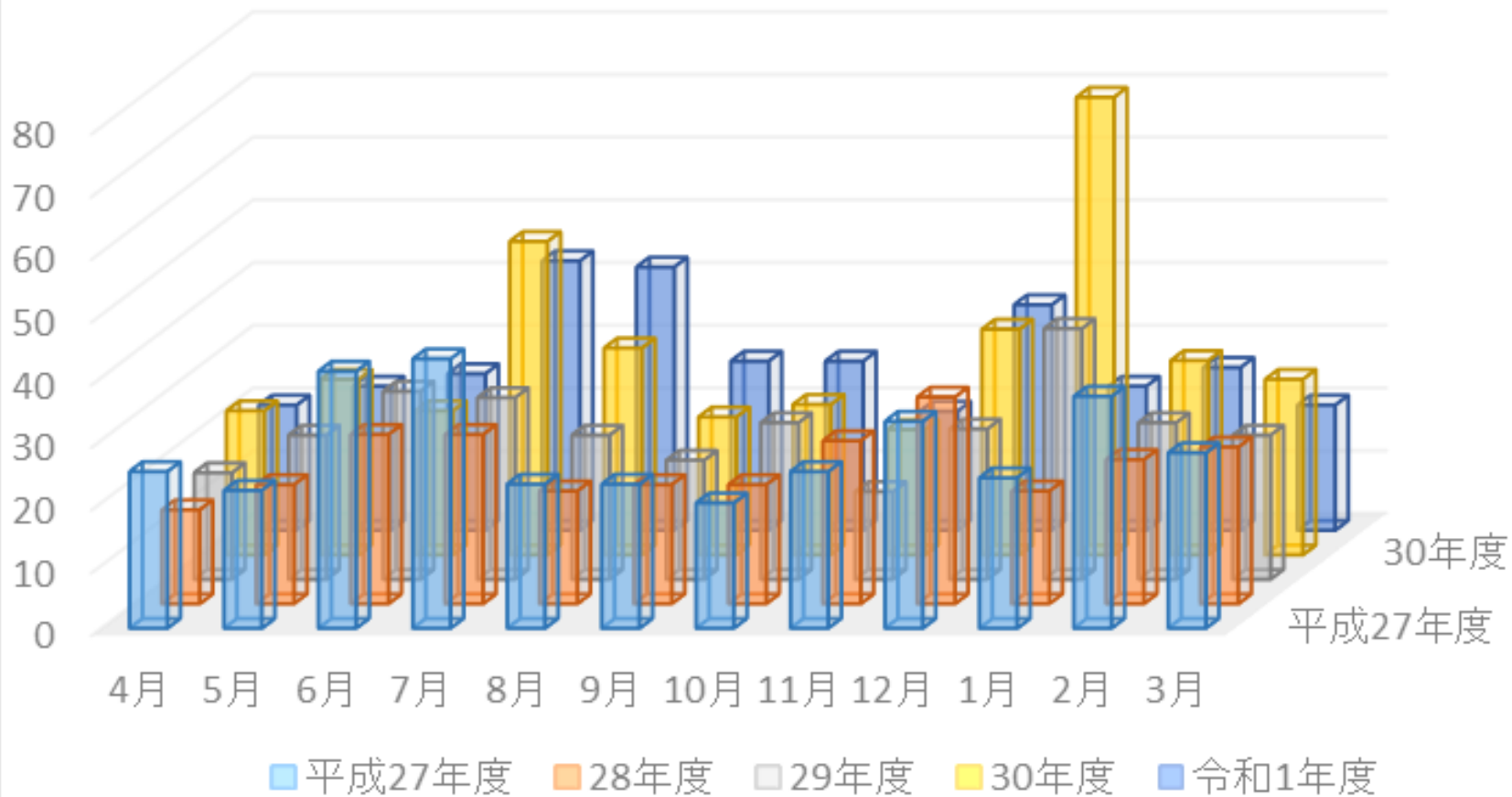
平成28年度572人、29年度577人、30年度566人、令和1年566人と令和1年からの1月からの入院患者数はインフルエンザが軽症で新規入院患者数は少なかったが年間の入院患者数は横ばいであった。

5年間の紹介患者数



紹介患者数は平成28年度938人、29年度961人、30年度1032人、令和1年度1073人と着実に増加傾向である。

5年間の救急搬送患者数



平成28年度269人、29年度292人で30年度391人と30年度は著明に増加したが令和1年度は331人と冬のインフルエンザの流行があまりなく熱性痙攣の搬送者が少なく減少した。

現在の状況の評価

日経メディカルが医師を対象に新型コロナウイルス感染症と外来患者数の調査をおこなった統計では小児科医の78%が減ったと回答しており、一番外来患者が減った診療科とされている。コロナ対策が続けば感染症の流行は無く、また来年のオリンピック開催の来年までこういう状況が続くと思われ感染症はあまり流行は無いように思われ、外来、入院患者の例年通りの患者数の確保は今後も難しいと思われる。

病診連携の一貫として、西宮北口小児科懇話会という症例検討会を年2回開催しているが、コロナの影響で5月に開催していたのが中止とせざるを得なかったが10月には是非開催したいと考えている。

今後の展望

新しい取り組みとしては発達障害児が1クラスに2人ぐらいいると言われている時代であるが、西宮北口に未来発達センターが新しく出来て受け皿になっているが、予約が入っても数ヶ月～半年先ということであり、発達障害児の療育にも力を入れていっていかもしれないがそれには今のところ人材が足りていない。

今後、紹介患者を増やさないといけないので当院に紹介していただけるように当院の病診連携の会に来られていない先生方の診療所訪問を行い軽症患者でも紹介していただけるような感じの雰囲気を培っていきたいと考えている。